

Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス



2020年度
定例理事会／臨時社員総会／全国代表者・正会員会議

JDSF岩手オンライン・ダンススポーツカップ

第6回全日本シニア10ダンス選手権

『Dance Dance Dance 100号』発刊の道なり I



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2021 No. 99



事務局長就任 ご挨拶



公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
常務理事 事務局長 **金子和裕**

2020年9月より事務局長を仰せつかりました金子和裕でございます。何分不慣れで皆様に何かとご不便をお掛けするかと存じますが、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

私が就任した9月は、コロナ感染拡大の真っ只中にあり、東京オープンはじめ全国の公認競技会は相次いで中止、また、サークル活動も停止を余儀なくされ、本連盟のダンス活動のほとんどが停止状態となってしまいました。本連盟としては大きな危機感を持ちながら、今後の対応に苦慮した次第です。

そのような中であって、ダンス活動再開の旗印として、無観客ではありましたが、第40回三笠宮杯ダンススポーツ選手権を開催いたしました。選手、スタッフ全員がPCR検査を受けてもらうなど、徹底した感染防止策のもとで行いましたが、久しぶりの競技会とあって出場選手全員が最高のパフォーマンスで競技してくれたことは、withコロナ時代に向けたダンス活動の再開に大きな勇気と希望を与えてくれました。

昨今の状況は、コロナ感染拡大は一向に収まらずその収束の兆しささえ見えない状況となり、ダンススポーツ活動もまだまだ厳しい状況が続くことになるかと思われまます。

しかしながら、コロナを恐れて何もしないということではなく、コロナ感染防止の徹底により、コロナに向き合ってダンス活動していくがこれから求められていくのではないかと思います。決して簡単なことではありませんが、ダンスを踊りたいと思っている多くのダンス愛好者や選手の皆さんに、安全安心な活動の場を提供することが本連盟の重要な役割ではないかと思います。

先日、コロナ対策感染防止の新たなガイドラインを発表させていただきました。地域における実情に合わせて、withコロナ時代に相応しい安全安心なダンス活動を行なっていただきたいと思ひます。

数少ない競技会やパーティーなどで、楽しそうに澁刺とダンスを踊る選手や会員の皆様の顔を拝見するたびに、早くコロナが終息しマスクのないダンスの世界に戻りたいと願うばかりです。皆さん、もう少しの我慢です。やまない雨はない…。共に頑張ってください。

事務所移転

2021年2月24日（水）、下記に事務所が移転になりました。

【新住所】

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-2 東屋ビル7階

尚、電話番号及びFAX番号の変更はございません。

〈交通のご案内〉

- 日比谷線「小伝馬町駅」徒歩1分
- JR線「馬喰町駅」徒歩4分
- 「新日本橋駅」徒歩4分
- 新宿線「馬喰横山駅」徒歩4分



2020年度定例理事会

2021年3月20日、2021年度の事業計画と収支予算を主な議案とする2020年度定例理事会が、移転した新事務所をハブとしてWEB併用会議の形で開催されました。

冒頭、2月23日に亡くなられた日本アマチュアダンス協会常務理事を務められた小林彌壽枝さんと、3月13日に亡くなられた当連盟名誉会長・理事の小野清子さんに対して、哀悼の意を表し黙とうを捧げました。

第1号議案の「2020年度業務執行状況の報告と承認の件」については、まず山田淳専務理事から主に新型コロナ問題への対応に注力した年度中の主要な活動についての報告、各理事による担当各部の報告が行われました。続く第2号議案は「諸規程の改定及び改正の件」。その内容は、利益相反管理規程とブレイキン強化選手選考基準、連盟役員候補者選考規程、役員 の定年に関する細則、テレワーク制度規程などでした。

第3号議案は、第2号議案の役員候補者選考規程承認に基づいた役員候補者選考委員会委員の選任についてとなりました。現理事と監事のなかから、中井眞一郎、市原則之、館博各理事、山田淳専務理事、金子和裕常務理事・事務局長、鈴木一夫、武永実花各監事に、外部有識者として川上琴美山梨学院短期大学教授と多賀啓弁護士が選任さ

れました。

第4号議案「スポーツ団体ガバナンスコード遵守状況の自己説明承認の件」、第5号議案「JSC助成事業に対する理事への謝金支給の件」に続き、第6号議案「2021年度事業計画・収支予算の件」に関し、提出された事業計画書及び収支予算書の報告と検討のうえ承認がなされました。

第7号議案「今後の理事会と総会等の日程について」一部変更の確認があり、議事は報告事項へと移りました。「今後の理事会と総会日程」

1. 6月6日（日） 14時～ 2021年度定例理事会

（主な議案 2020年度事業報告及び収支報告の承認の件、役員改選の件）

2. 6月20日（日） 13時～ 2021年度全国代表者・正会員会議

3. 6月27日（日） 14時～ 2021年度定時社員総会

（主な議案 2020年度事業報告及び収支報告の承認の件、理事・監事選任の件）

報告事項としては「新型コロナウイルス感染症への対応について」で事務局の休業状況、各種助成金への申請状況と結果が報告され、続いて傘下団体の「県体協への加盟進捗状況について」として未加盟の広島、高知、大分の3県における進捗状況の報告がありました。

臨時社員総会／全国代表者・正会員会議

2021年1月24日（日）に2020年度臨時社員総会と全国代表者・正会員会議が開催されました。新型コロナ感染症への対策からWeb会議形式で実施され、本部事務所には山田専務理事、金子事務局長など4名のみの出席での開催となりました。

定刻11時に開会した臨時社員総会は、（公社）日本ダンススポーツ連盟の本部事務所の移転を実施するにあ

たって定款の変更が必要になることなどから招集されました。同議案は書面決議書80通のうち79通の賛成多数を持って可決・承認されました。

また報告事項として、2024年パリオリンピック競技大会の追加種目にブレイキンが正式決定したこと、第40回三笠宮杯ダンススポーツ大会について、都道府県体育協会への未加盟3県の加盟促進状況についてがあり、報告後閉会となりました。

続いて同日13時からの全国代表者・正会員会議は、連盟活動の近況と2021年度の新たな取り組みについての報告・提案を中心としたものとなりました。

最初に、前年からのコロナ禍状況が継続するなかでの「環境変化と今後の対応方針」について山田専務理事からの報告があり、これに「九州PDの事例」報告が続きました。

また今年度の活動方針として、まず中道俊之理事から「新しい生活様式の中の技術認定会」の説明が行われ



ネット上の参加者

ました。これは、コロナ禍のなかでも低リスクで大きな成果をあげるための技術認定会として積極的に動画を活用した認定会を開催していくためのものです。撮影の手引き、評価点ごとの事例、受験者満足度向上のポイントなどを簡潔にまとめ、JDSF岩手、JDSF福島、JDSF千葉、JDSF沖縄などの事例を引用した説明となりました。同様の状況下での公認指導員研修会について、指導部の吉川英司部長から説明がありました。2021年度資格更新では集合研修会開催の困難継続も想定されるなかでの、特例措置についてでした。検討案として、資格更新研修は従来通りの集合研修の研修時間を短縮し午前のみ、もしくは午後のみの実施で食事を挟まない方式や、レクチャー動画のDVD配布やYouTube配信で代用するものなどが紹介されました。また同じく特例措置として公認指導員講習会及び試験開催に関しても「集合」に加え「Web活用」による方法を取り入れること、また講習会講師・役員謝金低減など経費について検討したことの報告がありました。

競技会の新たな可能性として、「JDSFオンラインコンペ」に関しての報告が、組織変革委員会新サービス検討

ワーキンググループの北牧雅文リーダーから行われました。各都道府県連盟などの主催者と競技選手の双方にメリットのあるものとして、公認競技会・承認競技会双方の競技形式が考えられるだけでなく、副次効果として地域活性化や新規スポンサーの獲得にもつながる期待がもてるものとされました。

「コロナ禍でのコスト削減と事業のあり方」については、常務理事の金子事務局長から報告されました。おもな内容は、会員登録の状況と期間延長、競技会出場状況と対策、事務所移転などでした。会員登録期間変更は、従来までの1月1日から12月31日までの会員資格を会計年度にあわせた4月1日から翌3月31日に統一し（21年度は1月1日から翌3月31日）、昇降級対象期間のみ1月1日から12月31日とすること。また選手登録証はデジタル登録証として個人のスマートフォンに発行することや昇降級の確認などが可能となる選手マイページを導入することなどの説明もありました。また、固定費削減のための本部事務所移転は2月下旬に実施され、新事務所は東京都中央区日本橋小伝馬町12-2東屋ビル7階となり、2月24日（火）から稼働すると報告されました。続いて、同じく

「JDSFスマホアプリ」の公開

この度、iPhone/Androidを対象にした「JDSFスマホアプリ」を公開いたしました。JDSFの電子会員証を、このアプリを使って表示することができるようになります。まずは、オンライン会員の登録を行って頂いてから、スマホアプリをインストール頂くようお願いいたします。

①JDSFオンライン会員の登録

※本人確認が必要なJDSFに生年月日を登録されている方のみが対象です。

- (1)こちらのURLにアクセス
<https://adm.jdsf.jp/>
- (2)右上の「新規登録」から登録を行ってください。

②JDSFスマホアプリのインストール

iPhoneはApple Store、AndroidはPlayストアからインストール頂くようお願いいたします。以下の二次元バーコードからインストール可能です。（「JDSF」でも検索可能です。）



※右上のカメラボタンからスマホのカメラ機能を使って顔写真を登録することが可能です。



iPhoneはこちらの二次元バーコードからインストールをお願いします。



Androidはこちらの二次元バーコードからインストールをお願いします。



オンライン会員に登録された会員の皆様は、このアプリを使って、

・電子会員証の表示 ・競技会スケジュールの確認 ・競技会成績の確認 等を行うことができます。

また、今後、競技会オンラインエントリーも行うことができる予定です。オンライン会員の登録をされていない方も、このアプリを使って競技会スケジュール等を確認することが可能です。（情報システム本部長 佐倉 文彦）

【お詫びと訂正】

DDD98号4ページ掲載の「毎日新聞社杯 全日本ダンススポーツ選手権 ジュブナイル」入賞者のお名前に間違いがありました。正しい内容は、スタンダード準優勝/ラテン第3位「吉岡栄太・山本怜奈」組でした。訂正し謹んでお詫び申し上げます。

金子事務局長と佐倉文彦情報システム本部長からシステム開発の状況が述べられました。2020年8月の全国代表者会議で報告されたシステム開発に関し、スマートフォン上でJDSF電子会員証を表示するモバイルアプリと会員の昇降級状況や競技会出場結果などの参照機能を持ったマイページ機能の開発がほぼ完了し、2021年4月頃からの利用可能になる予定です。また、競技会オンラインエントリー機能に関しても、複数の競技会でパイロットでのオンラインエントリーを試行しつつ、その結果を受けた会員展開が開始される予定にあることが報告されました。

11月に開催予定の都道府県対抗全国ダンススポーツ大会三重県大会と、8月開催予定の日本スポーツマスターズ2021岡山大会記念事業「ダンススポーツ競技」につい

ての説明を担当したのは金子事務局長でした。「シニアの国体」といわれ13競技に約9000人が集うスポーツマスターズに向けた岡山での大会に対し、三重県大会には参加エントリー数、収支予算などで検討事項が多いという内容でした。JDSFオリジナルマスクの販売の報告に続き、会議は全員参加のディスカッションへと進み、Web上での意見交換は報告にあったオンライン競技会の審判方法や撮影の仕組み、GDとPD間の協力体制のあり方、2022年開催予定となったワールドマスターズゲームズ関西の情報、各ブロック長を中心とした競技会実施例や体協への加盟状況などについてと多岐にわたりました。

最後に全体の進行を担当した岸尾政弘総務部長から正会員選挙に関する報告と説明があり、定刻通り終了しました。
(広報部長 佐藤 肇之)

JDSF BREAKING JAPAN 始動!

2021年度強化選手10名が決定!

日本ダンススポーツ連盟ブレイクダンス本部(以下JDSF)は、2020年度ブレイキン強化選手選考基準に基づき、10名の日本選手を強化選手団「BREAKING JAPAN」として指定しました。選手等は2021年3月に国内強化合宿を終え、今年度の強化プログラムをスタート。強化選手等は、2021年10月に中国南京で予定されるWDSF世界ブレイキン選手権での活躍を目指して活動を行います。



同時に2022年度の強化選手指定選考基準も発表しました。この基準を満たした選手が2022年度の強化選手に指定される権利を獲得することになります。対象競技会となる第3回全日本ブレイキン選手権(12月予定)への予選も兼ねて開催されるJDSFブレイキンブロック選手権は5月31日からオンラインでの予選をスタートします。詳しくは2021年度のJDSF BREAKING大会HPがオープンします! ご参照ください。

<https://www.jdsfbreaking.com>

〈2022年度ブレイキン強化選手選考基準〉

2021年4月1日から2022年3月31日までのシーズンにおいては、下記に該当する選手を強化事業の対象者とする。第3回全日本ブレイキン選手権(12月予定)の、オープン・ユース・ジュニア各カテゴリーの優勝者及び準優勝者(BBoy & BGirl)

〈問い合わせ先〉日本ダンススポーツ連盟ブレイクダンス本部 (<https://breaking.jdsf.jp/>) 担当: 白井 breaking@jdsf.or.jp

JDSF岩手オンライン・ダンススポーツカップを終えて

岩手県ダンススポーツ連盟 会長

中道 俊之 (JDSF理事)



【オンラインコンペ開催の背景】

新型コロナウイルス感染拡大が収束しない中、JDSF及び加盟団体である都道府県連盟はリアルに参集する競技会や会員向けの交流事業の中止や自粛を余儀なくされています。

連盟事業の中止や自粛は、競技選手のモチベーション維持を困難にし、会員の交流や健康増進活動に影響を与え、連盟の財政面にも大きな負担となっています。

生命の安全は何よりも優先されるべきですが、生きていく力や喜びをダンスに求めていた私たちにとって長期間におよぶ自粛生活はつらいものがあります。

今回、岩手県ダンススポーツ連盟では地元選手や競技会スタッフの確保が難しかったことから競技会のリアル開催を断念し、都道府県連盟としては初めてとなる動画提出方式のオンラインコンペを開催することにしました。

昨年、動画提出方式による技術認定会を開催した経験から動画の整理の仕方、ジャッジとの動画の送受信のイメージはあったもののそれ以外のことは全く経験のない未知の領域でしたが、県連盟の理事会で協議し実施を決定しました。

【注目されるオンラインコンペ】

都道府県連盟は当該都道府県を統括する競技団体として、またJDSFという中央競技団体の加盟団体としてのミッション(使命)を果たしつつ、県民(国民)に対してダンススポーツの価値を提供していかなければなりません。

去る2020年12月14日付でJDSF競技本部から「2021年競技関連規程の特例緩和と追加緩和事項」に関する通達が発信され、その中に8. 承認競技会の「オンラインコンペ」を推奨する(競技選手のモチベーションの維持と高揚を図る)とされました。また、2021年1月24日の全国代表者Web会議においてもJDSF新サービスワーキンググループからJDSF承認競技会「オンラインコンペ」企画について情報提供がありました。

コロナ禍にあって安全と競技を両立する方策の一つとしてオンライン競技会は有力な手段として注目されています。

【競技の概要】

第1回JDSF岩手オンライン・ダンススポーツカップは3月15日から3月21日まで動画を受け付け、その後約10日間の審査期間を経て3月31日に結果が発表されました。

競技は、①オープンカップ・スタンダード、②オープンカップ・ラテン、③マスターズカップ・スタンダード、④マスターズカップ・ラテンの4つの区分に分け、各ラウンドは基本的に1種目、オープンカップの決勝のみ2種目としました。

動画の撮影は、スマートフォン若しくはビデオカメラでの撮影で三脚を使ってカメラを固定する方法、第3者が撮影する方法いずれでも可としました。

収録にあたり、他の都道府県連盟やJDSF認定ダンス教室のご協力で全国7カ所で撮影会を企画開催していただきました。

また、競技用の動画を活用したPDからのコーチングが受けられる「フィードバックティーチング」も併催し、講師陣として34名のPDに名を連ねていただきました。

以上のような情報発信をした結果全国からのエントリーは、15都道府県から参加組数33組、エントリー総数48組となりました。この中にはジュニア、ユースの選手8組、学連の選手6組も含まれています。

【動画収録要件】

- 使用音源は、各競技区分ごとに指定された曲を使用することとし、ピッチの変更は不可
- 動画は踊り始めから1分15秒～1分30秒踊り続けること。(動画自体は1分30秒を超えても可)
- 1台のカメラ(スマホ、タブレットでも可)でフロア上の定位置(ジャッジ目線の高さ)から撮影すること。(三脚使用可、左右のふり、ZOOMはOK、撮影者が移動しながらの撮影は不可)
- 原則としてスマホ等の画面は横長使用で撮影し、明るい会場で収録すること。(色を用いた照明、スポットライト等の使用は不可)



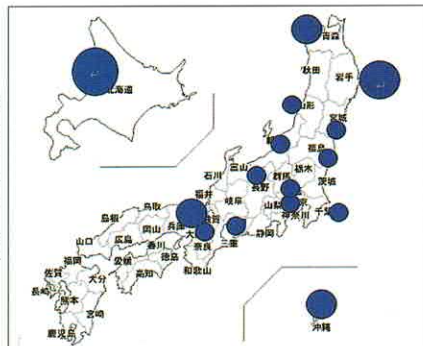
申込み

音源入手

動画撮影

動画提出

県別エントリー状況



大会事務局に動画提出(3/15~3/21)



USB郵送
郵送先 020-0132
盛岡市青山3-39-31
中道俊之



スマホ→LINE



PC→データ転送
送付先
toshiyuki.nakamichi@jdsf.or.jp

申込者は動画収録後に事務局宛データを提出
USB、LINE、データ転送サービス等を利用

- 提出する際に画像編集や速度調整等を行わないこと。
- 提出された動画の肖像権は大会主催者及びJDSFに帰属し、不受理の場合でも動画は返却しないこと。
- 動画収録の際の服装は、競技会出場選手服装規程を適用すること。
- 動画収録の際には、感染予防対策を十分考慮して撮影すること。



【オンラインコンペの現状と未来展望】

ダンススポーツ競技の審査方式には、比較対照方式と絶対評価方式とがありますが、従来からダンススポーツ競技は比較対照方式が多いため参集して行う競技会の感染対策には細心の注意と万全の策を講じなければなりません。

一方、オンラインコンペは、現時点においては実績もなく昇降級規程が適用されない「承認競技」ですが、参集しての競技会開催が難しい場合にはよりリスクの少ない競技会形式として期待されています。

今回は、先行トライアルとして実施しましたがいくつかのテーマについては今後主催する側で検討する必要があると思われる。

さらに、審査方式を比較対照方式とするか絶対評価方式とするか。画面上では同時に多数のカップルを映し出すことが難しいためソロ競技に近い状態での審査となります。簡易な基準でもいいので何らかの評価基準を定めておいた方がジャッジしやすいと思われます。JDSFはオリンピックや国体をめざす団体として新審判方式を構築して競技ルールや評価基準を明確にしており、この新審判方式は内外から高い評価を得ています。現時点でこれをオンラインコンペに採用するにはまだまだ課題がありますが将来的にはこれらの資産を有効に活用して絶対評価の魅力とオンラインのメリットの相乗効果を期待し、全日本クラスのオンラインコンペ開催も視野に入れていければと思います。

もう一つのテーマとして情報発信があります。地方の大会でもYouTube等で配信するようになれば新規スポンサーの獲得が現実味をおびてきます。地域を超えたネット環境の中でマーケティング活動が可能となってきます。

【YouTube配信について】

今回、YouTubeにおいてオンラインコンペの模様をダイジェストで配信しました。YouTube配信については、当初エンターテイメント的な視点で紹介するか、純粋な競技会として紹介するか、十分な整理もしないままとりあえず走りながら考えて進めてきました。最初は選手の顔ぶれがどのようになるのか分からないままスタートし、

YouTube解説

スタンダード
北牧雅文

JDSF 毎日新聞社杯第1回PD全日本選手権
スタンダードクラシックファイナリスト
全日本JDSF PD全国ランキング3位
JDSF PD第1回プレミアカップ
スタンダードチャンピオン



ラテン
山本武志

世界10ダンスファイナリスト
2018 三笠宮杯PDファイナルチャンピオン
2020 三笠宮杯PDスタンダード準優勝



結果として、全国から選手が参加してレベルが高くなったことからエンターテイメントとしては収められなくなりました。

もとより動画提出方式ですので画面上での比較対照ができないため、絶対評価に近い形での視聴となり、それに応じた解説をしなければなりません。

オンラインコンペにエントリーした選手は少なくとも1組ずつしっかり審査され、解説をしてもらえらると思っ

ていたかも知れません。解説は、感情的な表現とか感想だけでは限界があり、論理的な説明がなければ説得力がありません。このことをクリアするには、一般の方には難しいかもしれませんが技術的な説明や競技の際の評価基準を説明するのが最も公平で分かりやすいと感じました。

幸いYouTubeは何度も視聴できるので活用次第では大きな価値となって選手自身に返っていくことになります。

【フィードバックティーチング】

- 今回、コンペ用動画を使ってPDから5分以内の動画でコーチングを受けるというフィードバックティーチングを併催しました。このトライアルは県連盟事業の転換にとどまらずPDのビジネスモデルもあわせたイノベーションへと発展しつつあります。
- PD講師とGD選手の新たなマッチングが始まり、GD選手は多角的なコーチングが受けられ客観的なレビューが可能となります。他方、PD講師にとっては、リスクを伴わない広報宣伝の機会となり仮想空間上でアクティブな接触・交流が展開されることとなります。
- まさに価値観の転換が起こっているのだと思います。表面上はオンラインコンペですが、蓋を開けるとダンスの学習診断というかアセスメントが可能になるという仕組みが用意されているということになります。
- これまでにない多様なコーチ陣からいろいろな角度からのコーチが受けられる仕組みができることとなります。

【オンラインコンペ開催のための課題】

都道府県連盟が存続して行くために競技会は必須で、感染防止上オンライン形式も選択肢にしていく必要がある

りますが、その課題を整理してみました。

- リアル競技会をオンラインで開催するための業務や作業の置き換え検討
- チェアパーソン業務の検討（シラバス、ジャッジワーク設計と連絡調整）
- スクルティニア業務の検討（ジャッジワークにマッチしたシステム運用等）
- 窓口機能の検討（動画の受付、チェック、整理、加工、その他の連絡調整）
- 広報活動の検討（SNS、メール、YouTube等でのデジタル広報活動）

【オンラインへのアレルギー】

●オンラインコンペにはどうしても馴染めないという人もいます。一方、このオンラインコンペを開催する団体も増えてくるものと考えられますので、一定程度のオンラインコンペ愛好者層は形成されると思っています。

【結びにかえて】

オンラインコンペは、従来の対面式競技会を動画方式に置き換えて実施するというだけでなく、地域の壁を越えたネット空間での広がりとなるため、全国区での様々な企画が可能となります。また、提出動画を活用したティーチングやYouTubeでの動画配信等で新しい価値を生み出すとともに新しいコミュニティーの形成も可能となり、新規スポンサーの獲得も含めたサステイナブル（持続可能）な連盟運営に資することとなります。そのためには、デジタル化というハードルを越えなければなりません。デジタルネイティブ（世代）といわれる人達を養成し、連携していかなければなりません。今回の事業を進めながら「どうせ無理だ。」から「どうしたらできるだろうか。」という発想に切り替えていかなければならないとつくづく実感しました。



26 太田夢生 松本京佳 (北海道)
おおた あゆむ まつもと きょうか

オンラインオープンカップ・スタンダード優勝（同ラテン優勝）

2021年度のブルボンDST所属選手です！
引き続きよろしくお願ひいたします。

ブルボンDST



木下将希



小西乙愛



山本壮真



三喜真梨菜



ホワイトン謙心



ホワイトン夏奈実



みんなで
応援しよう！

『Dance Dance Dance 100号』 前半：創刊号～50号 発刊の道のり I



(公社)日本ダンススポーツ連盟 (JDSF) の広報誌『Dance Dance Dance』創刊は、1996年(平成8年)10月1日。創刊から25年、ダンススポーツ界の変遷、そして当連盟の発展の歴史を追いかけ、記録してきました。次は、ちょうど記念の100号となります。第99号と第100号では、読者の皆さんとともに、『Dance Dance Dance』(略称:DDD)四半世紀の歴史を振り返り、当連盟の確固たる足跡をたどりながら、様々な出来事に思いをはせてみたいと思います。25年の長きにわたり編集に携わってきた者として、ダンススポーツの基本や原則を守りながらも、変化していくことに意欲的に取り組んできたJDSFの更なる発展を祈念します。(JDSF広報部相談役 神宮周二/同顧問 宮崎多加子)

1996年

DDD創刊号

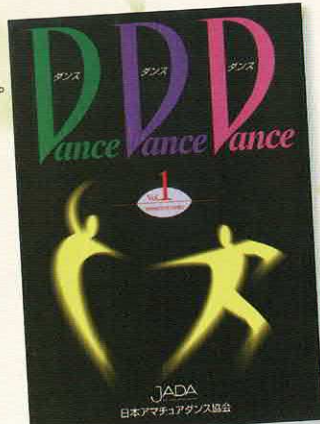
1996年(平成8年)10月1日創刊されました。

JADA会長山口繁雄巻頭あいさつ文 創刊に寄せて

「JADAは何をしてくれるのか?ではなく、会員自ら…多くの人に伝える担い手になり…積極的にプラス思考の生き方(組織作り)をしていくことが求められる時…」

オリンピックへの道-1- 仲野賢副会長

オリンピックは、JADA草創期からの最大の課題。



1997年

DDD2号

日体協加盟、法人化を目指して 清水康夫副会長

当時のJADAの4つの課題は、

- JADAがDSFの加盟団体に ●日体協加盟
- IOC加盟JOC加盟 ●法人化

次の目標は、●オリンピック参加 ●団体参加



DDD5号

安西孝之日体協会長からの巻頭文

「JADAをアマチュアスポーツの統括団体として早く日体協に迎えたい」1997年9月、IDSF(現WDSF)はIOC(国際オリンピック委員会)の正加盟となり、国際競技統括団体としてオリンピックファミリーの一員となりました。

1998年

DDD6号

ダンスの今年を、これからを語る

小野清子JADA顧問はJOC理事や日体協の評議員を務め、後に女性初のJOC副会長にご就任、さらに日本ワールドゲームズ協会(JWGA)会長等を務め、オリンピックや国体等数々のご指導を賜りました。ダンススポーツはIOCの正式競技種目として承認され「'98年はダンススポーツ元年」として山口繁雄JADA会長との座談会が掲載されました。司会は神宮周二広報部長。



DDD7号

ダンス界の変革に思うこと

常務理事 金子和裕事務局長

世界的な流れの中で従来の枠組みを超えた新しいダンス社会が生まれる、今はその胎動期。

全日本学生競技ダンス連盟名誉会長の 人見康子先生を偲ぶ

山口繁雄会長が一文を寄せました。

DDD8号

改正風営法の問題点を考える

田中甲衆議院議員

(ダンス議連事務局長) 国会質問

終戦直後の1948年(昭和23年)に制定されたいわゆる「風営法」は、ダンスをさせる営業を「風俗営業」として規制されてきましたが、1998年(平成10年)には、一定の要件を満たす社交ダンスのダンス教室を風俗営業から除外することを旨とする風営法の改正が実現しました。

1999年

DDD10号

1998年世界ダンススポーツ選手権大会開催

世界選手権(スタンダード)が、国立代々木第2体育館において日本初の開催。1か国から2組の出場ですが世界のレベルは高く、中西剛・えり奈組が準々決勝(24組)に進出し大健闘!それまでのスポーツダンスから「ダンススポーツ」へ、モダン種目から「スタンダード種目」へと、新しい名称になりました。



1998年6月21日の理事会で「公認指導員規則」が成立
ダンスの普及と競技力向上のために質の良い指導員育成を目指し、公認指導員制度がスタートしました。

DDD11号

JADAからJDSFへ

山田常務理事・組織委員長

日本ダンススポーツ連盟(JDSF)の設立アマチュアダンス界の新たな一歩。

学連創立50周年パーティ報告



DDD12号

JDSF・新しい流れ 仲野巽副会長・専務理事

1999年(平成11年)2月、JADA臨時総会ならびにJDSF設立総会が開催され、国内外の課題解決推進のためAリーグ会長の鶴飼慶司氏を初代会長に選任、山口繁雄会長は議長に就任、新たな一歩を踏み出した。6月13日、初のJDSF定時総会が開催され、日本アマチュア競技ダンス連盟(LACD)は日本社会人ダンス連盟(NSDR)との統合及び内部組織化を果たし、昭和55年、日競連からLACDに委譲されたIDSFの加盟権がJDSFに変更されたこと、6月22日付けで日体協に加盟(準加盟)することが報告されました。

DDD13号

スポーツ界の表舞台に立つ 日体協加盟記念祝賀会

9月26日、新高輪プリンス飛天の間において記念祝賀会が盛大に開催されました。



2000年

DDD16号

ダンススポーツの普及に向け、新たな一歩 5月23日日本体育協会記者クラブにおいて日体協加盟後、初の記者発表

DDD17号

白熱!史上最高 3フロアーの競技会 8月6日千葉県京葉支部大会は船橋アリーナで開催され、1459組が出場、史上最高の3フロアーで開催されました。



2001年

DDD18号

スイスローザンヌ発IOC向けデモンストレーション競技会 DanceSport with in the Olympic Family

IDSF(現WDSF)は、2000年12月15日、IOCのサマランチ会長はじめ多くのIOC関係者を招き、オリンピック参加を強くアピールするためにデモンストレーション競技会を開催、日本からは渡辺和昭・渡辺裕美組が参加しました。



秋田ワールドゲームズ2001代表選抜大会 アマプロを問わず同じフロアー上で競う

ワールドゲームズは、IOCが承認し国際ワールドゲームズ協会(IWGA)が主催するオリンピックファミリーの大きな大会で2001年秋田開催にあたり、前年の11月4日日本代表を公平に選出するための選抜競技会を開催。アマプロを問わず多数の選手が出場しました。スタンダードは天野博文・京子組、ラテンは石川浩之・菅野純代組が優勝。



DDD19号

パブリシティの1年

ダンススポーツは、2000年の1年間、日テレ、TBS、テレ朝などのテレビや新聞、雑誌等のメディアに数多く紹介されました。



DDD20号

2001年(平成13年)度総会において新会長に 齊藤斗志二衆議院議員が就任



DDD21号

秋田ワールドゲームズ2001世界の国から、輝く太陽がやってきた熱き戦い

「世界最高の競技を行うこと」「広く市民によるスポーツへの参加」を目的に、第2のオリンピックと言われるワールドゲームズが、8月25・26日の2日間、アジア初の開催となりました。指定席券はすべて売切れ、当日の自由席券を求め、朝早くから長い行列ができました。



2002年

DDD22号

「日本ダンススポーツカウンシル(DSCJ)の設立」と「全日本アマチュア統一級」のスタート

1月JDSFはプロ団体のJDCとJCFの賛同を得てDSCJを設立。各団体個別の競技体系と競技ルールをアマチュアについては全国統一された競技ルールとなり、全日本アマチュア統一級がスタートしました。

「ダンススポーツ教程」テキスト愈々完成!!

2000年8月スタートしたプロジェクトは1年半後にテキストとレッスンビデオを完成、2002年3月より販売が始まりました。



DDD24号別冊号

2002年(平成14年)7月14日社団法人日本ダンススポーツ連盟の設立総会を開催

JDSFの法人化というビッグニュースはDDD24号で巻頭からカラーで10ページにわたり大きく掲載されるべく印刷直前まで準備が進んでいましたが、仲野専務理事の決断でダンス界の世相に配慮し中断、後日、別刷りモノクロ600部のみの印刷とし各都道府県連盟に配布されました。文部科学大臣の設立認可日は平成14年8月6日です。



2003年

DDD26号

パウマンIDSF会長



News Year's Message

IDSF会長からの新年のメッセージは2003年から始まり、毎年の恒例となりました。

第15回全国健康福祉祭ふくしま大会

うつくしまねりんピック2002 厚生労働省と各県自治体等が主催する通称「ねりんピック」の「社交ダンス交流大会」は、初めて福島県ダンススポーツ連盟が主管となり川俣町で開催されました。



歴史に残る大会!!

第22回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

三笠宮杯は、日本のアマチュア競技の原点ともいうべき大会。高視聴率を誇る「ウリナリ芸能人社交ダンス部」から「南原清隆・杉本彩組」「ゴルフ松本・小池栄子組」「勝俣和州・山川恵里佳組」などが出場、TVの特番収録も行われました。



DDD27号

ドーピング・コントロールとJDSFの取り組み

第5回東京オープンより、IOCの認める国内競技団体(NF)として、ドーピング・コントロール(ドーピング検査)がスタートしました。

DDD28号

ふくらむ夢の実現に向けて 創立25周年 社団法人化を祝う

遠山敦子文部科学大臣から祝辞を賜り、6月29日、新高輪プリンス飛天の間において、明るい未来を展望させる盛大な記念式典と大舞踏会が開催されました。



DDD29号

「元気で、楽しく、リズムカル」 子どもダンスうंदう

静岡市体協の主催で2002年(平成14年)12月より競技力向上事業の一環として「子供たちのためのダンスうंदう」が開催されました。2004年第24回三笠宮杯において「第1回全国子どもダンスうंदう大会」がスタートしました。



2004年

DDD31号

アマチュアによるアマチュアのためのダンス、そして人の和、輪、話。

静岡県ダンススポーツ連盟県体協加盟及び 創立15周年記念祝賀会

1999年(平成11年)、日体協に加盟(準加盟)したことにより、都道府県DS連盟の県体協加盟は相次ぎ、静岡、和歌山、鹿児島を加え、合計20県となりました。



DDD32号

温泉、景色、会場の素晴らしさ 第28回北海道ダンススポーツ競技会 「ANA's CUP in 天翔」

2004年(平成16年)6月6日、いつもの体育館ではなく、素晴らしく風光明媚な洞爺湖に面したガラス張りの洞爺湖温泉洞爺パークホテル天翔の間においてANA(全日空)の冠大会となりました。大勢のボランティアスタッフが泊まり込みの大会運営となり、温泉を、競技会を、ダンスパーティを楽しみ、外人デモのバックには花火が上がり、なんととも幻想的な素晴らしい大会となりました。



2005年

DDD35号

新しい技術認定制度でサークルの活性化を!

ダンススポーツを競技のみならず、成熟社会型ライフスタイルへのシフトに対応して生涯スポーツとして楽しんでいただく仕組みの一つとして、平成17年度から、技術認定制度がスタートしました。

東アジア競技大会日本代表決まる!! プロアマ交えた選考会

2005年10月マカオにおいて開催される第4回東アジア大会に初めてダンススポーツが正式競技種目となり、選手はJOCから日本代表として派遣されることになりました。メダル獲得を最優先に、プロは昨年の統一全日本ダンス選手権上位12組と各プロ団体から別途推薦された2組、JDSF選手は昨年度のJDSFランキング上位12組までの選手に出場資格が与えられ、すべて外国人ジャッジによりプロアマミックスの選考競技会が実現しました。



DDD36号

第100回記念東京六大学競 技ダンス選手権大会によせて

5月3日、大森ベルポートにおいて開催。第一部は現役学生戦、第二部OBOGによるトライアルと各大学を代表するトッププロトピアのデモ。第三部はOBOGによるダンスパーティが盛大に開催されました。



日体協公認スポーツ指導者育成計画の概要

日体協は2005年(平成17年度)から新たな指導者制度をスタート。JDSFも日体協の指導を受けながら「競技別指導者の育成」がスタートしました。

2006年

DDD38号

2005年10月マカオ開催の 第4回東アジア大会

JDSFの推薦する選手が初めてJOC日本代表として派遣され、金メダル5個を獲得しました。



DDD40号

東京都ダンススポーツ連盟創立30周年記念祝賀式典 盛大に開催



6月25日帝国ホテル「孔雀の間」において、会員数7千名を超える東京都ダンススポーツ連盟の創立30周年記念祝賀式典は約700名が参加し盛大に開催されました。

DDD10周年、10年の歩み
JDSF広報誌DDDは創設10年、40号を数え、10年の歩みを振り返りました。



DDD41号

ハラショー そして スパシーバ!

第1回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ '06 in 静岡

2006年(平成18年)8月19日・20日 溝口穂競技本部長(ジュニア育成部長)の地元、静岡市中央体育館において開催。将来の日本を代表するジュニア育成とオリンピック参加を目的に、全国からジュニア選手とジュニア指導員が参集し開催。ロシアを代表するジュニア5組の選手も参加、市長表敬訪問、ホームステイ、交流会など、多くのプログラムが組まれました。



2007年

DDD42号

学生台北派遣レポート

この大会の派遣は昨年度から実施され、今年もまた、9月30日から10月1日に台北で行なわれるIDSF世界大学選手権及びIDSFオープンに、夏の全日本学生選抜選手権成績優秀者からラテン・スタンダード各3組を派遣しているものです。

神奈川県ダンススポーツ連盟創立30周年記念事業の開催

11月11日(土) 横浜港大さん橋ホールにおいて具体協正加盟記念を兼ね開催。47都道府県の中で最も古い歴史を誇る連盟が30年の歴史を作り上げてきました。



DDD43号

第9回ロヂャース杯争奪東京インターナショナルオープン選手権

国際的にも運営や競技内容が高く評価され、第9回東京オープンは、スタンダード、ラテン共にグランドスラムシリーズに指定され、大変名誉ある、そしてクオリティの高い、素晴らしい大会になりました。千葉県の幕張メッセイベントホールは大歓声に包まれ、客席は最上階の3階までお客様で埋まりました。



DDD44号

JOCに正加盟決まる!!

2007年(平成19年)6月26日はJDSFの歴史に新しいレコードを残す記念すべき1日になりました。公民館から世界へ、2005年マカオの東アジア大会での好成績、そして全国的な活動が認められたこと、2010年の中国広州アジア大会で正式種目になったことも大きな要因。

2008年

DDD46号

世界10ダンス世界選手権開催

10月20日(土)、東京体育館を舞台に、スタンダード5種目とラテン5種目の計10種目を踊りきるタフな肉体と精神力が要求される、ダンススポーツの中では最も過酷な最高峰の競技会、世界10ダンス選手権が開催されました。世界29カ国の代表選手がしのぎを削る熱き戦い! 館内は、約6千人の観客で超満員となりました。



国体参加を目指して! 内閣総理大臣賞争奪 第15回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 in 秋田

第1回全日本社会人スポーツダンス大会から始まり、第6回から都道府県対抗戦に名称変更され今回で第15回目を数え、国体のダンススポーツ競技参加を目指して毎年国体開催県で開催されており、オリンピック競技候補種目が一堂に会した2001年秋田ワールドゲームズと同じ、秋田市立体育館で開催されました。



2009年

DDD50号

我が国初!! 世界の強豪が集結!!

グランドスラムファイナル in TOKYO開催

ISDF主催の選手権でも最もレベルが高いグランドスラム大会(年間わずか5回の開催)の獲得ポイント上位から12組+主催国1組しか出場が許されない掛け値なしの世界実カトップが競うグランドスラムファイナルが、2008年11月24日グランドプリンスホテル新高輪・飛天の間において開催されました。勿論、わが国、初の開催です。



大会名誉総裁 三笠宮殿下をお迎えて

第28回三笠宮杯 全日本ダンススポーツ選手権開催

2008年10月26日(日)、東京体育館において開催された第28回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権。今大会より大会名誉総裁にご就任いただいた三笠宮殿下は、92歳とは思えないお元氣な姿でご臨席を賜りました。館内一杯の観客と共に、最後のオナーダンスまでご観戦され、かつてない盛り上がり大会となりました。



第50号発行にあたって

「Dance Dance Dance」(通称DDD)の創刊号(第1号)は、1996年10月号でした。「見てもらえ、読んでもらえる会報誌」を目指して、スタートした第1号から本号(2009年1月号)でちょうど第50号を刊行するにいたしました。前準備期間も含めるといつの間にか13年の月日が経ちました。



第6回 全日本シニア 10ダンス選手権

2021年1月10(日)／京都府立伏見港公園体育館

京都の南、近くに宇治川が流れる京都府立伏見港公園体育館で「第6回全日本シニア10ダンス選手権」が行われました。

2021年「世界シニアⅠ 10ダンス」「世界シニアⅡ 10ダンス」代表選手選考会でしたが、世界的なコロナ感染のために開催地はまだ決まっておられません。

数日前から全国的に寒波が押し寄せ、暖房の効きにくい体育館での大会では厳しいのですが、この日は朝から太陽が昇り風もなく晴天に恵まれ、心配していた程の寒さではありませんでした。

今大会はコロナ禍の中での競技会となり、「シニア10ダンス」以外にもアルファベット級やノービス・府民総体もありましたが、人数制限の為にネットエントリーのみの申し込みとして156組162エントリーとなりました。

「シニア10ダンス」だけは組数の制限を設けませんが、毎年50組前後のエントリーがある中、関東の緊急事態宣言もあり、初回から参加されている方も、勤務先からの規制やコロナ感染のリスク等それぞれの事情でやむなく断念された方も多くあり、今年は30組のエントリーでした。

会場では、選手の方々には密にならないように受け付け時間を分けての入場にもご協力をお願いしましたが、コロナ対策なども含め皆さんきちんと守られて助かりました。

9:30 開会宣言、試合開始

11:00 「シニア10ダンス」1次予選、4組キャンセルがあり26組4ヒート、ラテンからのスタートです。

練習場閉鎖や練習自粛の日々が長く続き、練習不足で



筆者とご主人の
谷口主嘉会長

京都府ダンススポーツ連盟理事 谷口 小夜子

一年ぶりの競技会は身体も重く、つらいことだと想像しますが、皆さんの踊れる喜びが本部席にも伝わって来て感動しました。

順調に競技は進み1次予選終了後、コロナのために入場行進はできませんでしたが、恒例の「シニア10ダンス」の横断幕を持っての記念撮影は、参加人数が少ないので何とかしたい！と実行することを決めました。全員マスクをつけて撮影準備をしてパチリ！一瞬マスクを外してパチリ！「マスクをして踊ったなあ〜」と、記念となりました。

2次予選は20組3ヒート、準決勝12組2ヒート、決勝戦には6組が進み、会場からの手拍子や拍手にも励まされて熱い戦いを繰り広げ、見事40曲を踊り切りました。私は司会をさせて頂きましたが、40曲目最後のジャイブのアナウンスでは、非常事態宣言で練習もできない状況の中で不安を抱えての毎日を過ごされ、「シニア10ダンス」エントリーへの決意等を考えると、感動で震える声を必死にかくし、来年はきっとマスク無しで踊れることを強く心から願いました。

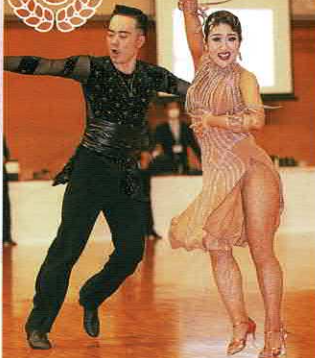
そして優勝は去年に続き、2連覇を果たした「石田茂之・矢野美帆子」組、オーナーダンスは情熱のサンバ！元気いっぱい踊って会場を沸かせてくださいました。コロナ禍での試合、役員一同心を込めて一生懸命にお世話させて頂きましたが、会場では沢山の方から感謝のお言葉を頂き、大会の成功を確信致しました。役員一同「おもてなし」の心で、来年もまた京都でお待ちしております。

▼マスクを外してパチリ!!



全日本シニア10ダンス選手権

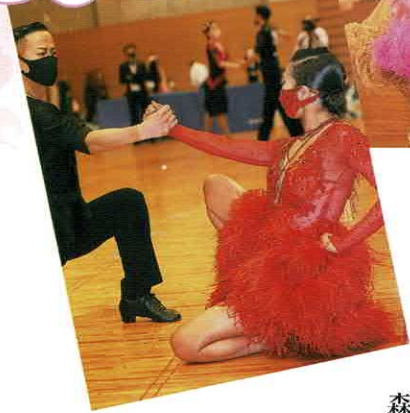
石田茂之・矢野美帆子組
(すみれダンススポーツクラブ)



大嶋隆義・秋吉花音組
(東京都)

片庭雄広・佐野愛実組
(茨城県)

沢山の方のおかげで無事に出場
でき、目標にしていた2連覇を
達成することができました。厳
しい状況が続きますが、またひ
と一つ積み上げて、この素敵
な京都の会場でチャレンジでき
るように鍛錬していきます！



森 晃士・森 仁美組
(三重県DSC)



齋藤有輝・齋藤明佐子組
(オクダダンスクラブ)



馬潤亮一・馬潤邦美組
(福井県DSC)



B級ラテン



B級スタンダード



C級ラテン



C級スタンダード



ノービススタンダード



D級ラテン



D級スタンダード



府民総体 ルンバの部



府民総体 ワルツの部



府民総体 タンゴの部



府民総体 チャチャチャの部

